



## 平成28年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（非連結）

平成27年10月30日

上場会社名 株式会社ホットマン 上場取引所 東  
 コード番号 3190 URL http://www.yg-hotman.com/  
 代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 伊藤 信幸  
 問合せ先責任者 (役職名) 専務取締役営業本部長 (氏名) 柳田 聡 TEL 022-243-5091  
 四半期報告書提出予定日 平成27年11月12日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：有（機関投資家・アナリスト向け）

(百万円未満切捨て)

### 1. 平成28年3月期第2四半期の業績（平成27年4月1日～平成27年9月30日）

#### (1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
28年3月期第2四半期	8,966	1.6	△353	—	△318	—	△258	—
27年3月期第2四半期	8,825	—	△501	—	△476	—	△396	—

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
28年3月期第2四半期	△35.50	—
27年3月期第2四半期	△54.44	—

(注) 当社は、第2四半期の業績開示を平成27年3月期より行っているため、平成27年3月期第2四半期の増減率は記載しておりません。

#### (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
28年3月期第2四半期	14,282	5,449	38.2	748.96
27年3月期	14,210	5,777	40.7	794.15

(参考) 自己資本 28年3月期第2四半期 5,449百万円 27年3月期 5,777百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
27年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
28年3月期	—	0.00	—	—	—
28年3月期(予想)	—	—	—	10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 平成28年3月期の業績予想（平成27年4月1日～平成28年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	22,630	7.6	410	19.7	430	6.5	210	107.2	28.86

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	28年3月期2Q	7,275,500株	27年3月期	7,275,500株
② 期末自己株式数	28年3月期2Q	－株	27年3月期	－株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	28年3月期2Q	7,275,500株	27年3月期2Q	7,275,500株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表に対するレビュー手続は終了していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
3. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	5
第2四半期累計期間 .....	5
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項 .....	6
(継続企業の前提に関する注記) .....	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	6
(セグメント情報等) .....	6

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### （1）経営成績に関する説明

当第2四半期累計期間における我が国の経済環境は、企業収益や雇用情勢の改善など緩やかな回復基調にあるものの、円安に伴う物価の上昇、世界的な株式市場の下落等を背景に、景気の先行きにつきましては依然として不透明な状況が続いております。

当社の出店エリアにおきましても、消費者の節約志向が継続した影響もあり、売上高は低調に推移致しました。

そのような環境の中、当社におきましては、会社方針に「ホットマンは深化・進化・新化する集団〈行動の数だけ結果が出る〉」を掲げ、基本に立ち返り「挨拶」「掃除」「結果につながる行動」を3つの柱とし、消費再増税に備え営業力の強化をはかって参りました。

平成27年4月に福島県本宮市と長野県安曇野市にイエローハット各1店舗の新規出店を行い、フランチャイズ契約の終了によりガリバー事業（3店舗）を撤退致しました。同年5月より新たにカーセブン事業（3店舗）を開始し、同年7月に長野県上田市にイエローハット1店舗、同年9月に秋田県秋田市にアップガレージ1店舗を新規出店致しました。当第2四半期累計期間末の店舗数は、イエローハットが85店舗（前年同期間比4店舗増）、TSUTAYAが10店舗、アップガレージが7店舗（前年同期間比1店舗増）、カーセブンが3店舗（前年同期間比3店舗増）、ダイソーが2店舗、自遊空間が1店舗、宝くじ売場が5店舗、セガが1店舗の合計114店舗となっております。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高は8,966百万円となり、前年同期間比140百万円（前年同期間比1.6%増）の増収となっております。経常損失につきましては318百万円（前年同期間476百万円の経常損失）となっております。四半期純損失は258百万円（前年同期間396百万円の四半期純損失）となっております。

セグメント別の業績は、次の通りであります。

[イエローハット]

当社の主たる事業であるイエローハット事業におきましては、平成27年4月に福島県本宮市にイエローハット本宮戸崎店、長野県安曇野市にイエローハット安曇野店、同年7月に長野県上田市にイエローハット上田原店の新規出店を行いました。イエローハットの重点販売として、昨年に引き続き車検・整備を中心としたサービス部門の強化をはかると共に、リピート率の高いカード会員の獲得に積極的に取り組んで参りました。平成27年4月はタイヤ販売・車検等サービス部門の売上が好調であったものの、同年5月以降の売上高は低調に推移致しました。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高6,899百万円（前年同期間比2.9%増）、セグメント損失（営業損失）は209百万円（前年同期間344百万円のセグメント損失（営業損失））となっております。

[TSUTAYA]

TSUTAYA事業におきましては、主力であるレンタルと書籍販売で苦戦したものの、高利益商品の販売に注力し、減収増益となっております。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高1,267百万円（前年同期間比2.5%減）、セグメント利益（営業利益）は34百万円（前年同期間比17.2%増）となっております。

[その他]

アップガレージ事業におきましては、平成27年9月に秋田県秋田市にアップガレージ秋田店を新規出店致しました。同年4月から売上高は比較的順調に推移しておりましたが、同年7月以降は低調に推移致しました。

平成27年5月より新たに開始したカーセブン事業におきましては、車輛展示等の外部アピールを積極的に実施し、集客活動に注力致しました。低調に推移しておりましたガリバー事業と比べ売上高は回復傾向にあります。

自遊空間事業におきましては、震災復興関連需要の鎮静化に伴い来店数が減少し、売上高は低調に推移致しました。

ダイソー・宝くじ事業におきましては、売上高は比較的順調に推移致しました。

なお、ガリバー事業（3店舗）につきましては、平成27年4月に撤退しております。

この結果、当第2四半期累計期間の業績は、売上高799百万円（前年同期間比2.5%減）、セグメント利益（営業利益）は14百万円（前年同期間比70.7%増）となっております。

（2）財政状態に関する説明

① 資産

当第2四半期会計期間末における流動資産の残高は52百万円減少し、7,161百万円（前事業年度末7,214百万円）となりました。これは主に、現金及び預金が150百万円、商品が106百万円増加したものの、未収入金（その他の流動資産）が301百万円減少したことによるものであります。

また、固定資産の残高は124百万円増加し、7,120百万円（前事業年度末6,996百万円）となりました。これは主に、建設仮勘定（その他の有形固定資産）が191百万円減少したものの、建物が260百万円、構築物（その他の有形固定資産）が43百万円増加したことによるものであります。

この結果、総資産残高は14,282百万円（前事業年度末14,210百万円）となりました。

② 負債

当第2四半期会計期間末における流動負債の残高は257百万円増加し、5,717百万円（前事業年度末5,459百万円）となりました。これは主に、未払法人税等が208百万円、未払消費税等（その他の流動負債）が87百万円減少したものの、短期借入金が350百万円、買掛金が128百万円増加したことによるものであります。

また、当第2四半期会計期間末における固定負債の残高は142百万円増加し、3,116百万円（前事業年度末2,973百万円）となりました。これは主に、長期借入金が96百万円、退職給付引当金が55百万円増加したことによるものであります。

この結果、負債合計残高は8,833百万円（前事業年度末8,432百万円）となりました。

③ 純資産

当第2四半期会計期間末における純資産の残高は328百万円減少し、5,449百万円（前事業年度末5,777百万円）となりました。これは主に、四半期純損失を258百万円計上並びに剰余金の配当を72百万円支払ったことによるものであります。

（3）業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社の主たる事業のイエローハット事業において、主力商品であるスタッドレスタイヤの販売時期が11月から12月に集中するため、通常第3四半期会計期間の売上高は、他の四半期会計期間の売上高と比べ著しく高くなっております。

なお、平成27年9月17日付「特別利益及び特別損失の計上に関するお知らせ」並びに平成27年10月21日付「（訂正）「特別利益及び特別損失の計上に関するお知らせ」の一部訂正に関するお知らせ」にて開示の内容を含め、何らかの変化が生じた場合、適時適切に開示致します。

2. サマリー情報（注記事項）に関する事項

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成27年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成27年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	676,154	826,917
売掛金	470,167	391,186
商品	5,019,538	5,125,643
貯蔵品	1,409	1,361
その他	1,047,021	816,902
貸倒引当金	△60	△523
流動資産合計	7,214,231	7,161,489
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	2,403,772	2,664,463
土地	1,861,666	1,868,902
その他(純額)	678,068	559,142
有形固定資産合計	4,943,507	5,092,509
無形固定資産	71,646	64,683
投資その他の資産	1,981,331	1,963,753
固定資産合計	6,996,485	7,120,945
資産合計	14,210,717	14,282,435
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	965,669	1,093,672
短期借入金	2,300,000	2,650,000
未払法人税等	241,729	33,036
賞与引当金	104,416	107,916
ポイント引当金	230,307	244,867
その他	1,617,318	1,587,508
流動負債合計	5,459,442	5,717,001
固定負債		
長期借入金	1,629,150	1,725,350
退職給付引当金	802,549	858,384
役員退職慰労引当金	129,495	131,685
資産除去債務	138,255	143,163
その他	274,010	257,787
固定負債合計	2,973,459	3,116,369
負債合計	8,432,902	8,833,371
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,910,645	1,910,645
資本剰余金	500,645	500,645
利益剰余金	3,224,552	2,893,531
株主資本合計	5,635,843	5,304,823
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	141,971	144,240
評価・換算差額等合計	141,971	144,240
純資産合計	5,777,815	5,449,063
負債純資産合計	14,210,717	14,282,435

(2) 四半期損益計算書  
(第2四半期累計期間)

(単位:千円)

	前第2四半期累計期間 (自平成26年4月1日 至平成26年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成27年4月1日 至平成27年9月30日)
売上高	8,825,997	8,966,728
売上原価	5,133,723	5,045,491
売上総利益	3,692,274	3,921,236
販売費及び一般管理費	4,193,868	4,274,422
営業損失(△)	△501,594	△353,185
営業外収益		
受取手数料	17,757	17,432
受取賃貸料	26,682	26,864
産業廃棄物収入	17,258	15,766
その他	17,597	20,393
営業外収益合計	79,294	80,456
営業外費用		
支払利息	33,299	25,298
賃貸収入原価	17,633	17,796
その他	2,985	2,905
営業外費用合計	53,919	46,000
経常損失(△)	△476,218	△318,729
特別損失		
減損損失	96,410	7,964
固定資産除却損	508	884
特別損失合計	96,918	8,848
税引前四半期純損失(△)	△573,136	△327,578
法人税、住民税及び事業税	18,279	18,427
法人税等調整額	△195,343	△87,740
法人税等合計	△177,064	△69,312
四半期純損失(△)	△396,072	△258,265

(3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期累計期間(自平成26年4月1日至平成26年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期損益計 算書計上額 (注3)
	イエローハット	TSUTAYA	計				
売上高							
外部顧客への売上高	6,705,095	1,300,711	8,005,806	820,190	8,825,997	—	8,825,997
セグメント間の内部 売上高又は振替高	11,153	852	12,005	2,019	14,025	△14,025	—
計	6,716,249	1,301,563	8,017,812	822,210	8,840,023	△14,025	8,825,997
セグメント利益又は損 失(△)	△344,573	29,376	△315,197	8,487	△306,709	△194,884	△501,594

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アップガレージ事業、ダイソー事業及び保険収入等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△194,884千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。

II 当第2四半期累計期間(自平成27年4月1日至平成27年9月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期損益計 算書計上額 (注3)
	イエローハット	TSUTAYA	計				
売上高							
外部顧客への売上高	6,899,371	1,267,909	8,167,280	799,447	8,966,728	—	8,966,728
セグメント間の内部 売上高又は振替高	9,407	773	10,180	2,691	12,872	△12,872	—
計	6,908,778	1,268,683	8,177,461	802,139	8,979,601	△12,872	8,966,728
セグメント利益又は損 失(△)	△209,797	34,439	△175,357	14,488	△160,868	△192,316	△353,185

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アップガレージ事業、ダイソー事業及び保険収入等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△192,316千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用であります。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失(△)は四半期損益計算書の営業損失と調整を行っております。